

【団体概要】

小松市国際交流協会は、外国人の受け入れ・支援、そのための日本語学習の支援、また異文化との交流を通じ積極的に共存共栄を図ってゆく為、既存諸団体はもちろん市民ボランティアとのネットワークを拡大することを目的に1993年に設立されました。

年々減少傾向にあった外国人数も、昨年から徐々に増え始めているなか、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業をはじめ、地域の短大生と外国人が実行委員となり企画・運営をする運動会やBBQ、クリスマスパーティなどの「交流事業」、留学生や在住外国人が講師となり国際理解講座を開催する「国際理解事業」などを行なっています。また、「多文化共生推進事業」としまして日本語教室の運営をはじめ、日本人大学生による児童・生徒への学習支援事業、外国人が多く住む自治会行事への継続的な参加による顔の見える関係づくりを目指しています。

(参考)平成27年6月現在 小松市人口 108,478人(うち外国人1,425人)

【方針】

多文化共生社会の推進・・・人と人とのつながりを基本に外国人の力を加え、行政・地域・諸団体と連携、協力し多文化共生社会を目指す。

人材育成と改善の推進・・・自ら課題を捻出し改善にあたるような外国人キーパーソンの人材育成を図り、より多くの場面での活躍。また、日本語指導者の育成と教室のさらなる改善による、より良い日本語学習支援の実現。

【これまでの主な事業】

《自主事業》

- ・日本語教室（グループクラス、プライベートクラス）
- ・運動会やBBQ、クリスマスパーティなどの交流事業
- ・多文化共生啓蒙ワークショップ
- ・地域の小、中学校への出前講座
- ・文化体験、語学教室、母語教室や学習支援事業
- ・地域行事への参加 など

《受託事業》

- ・JICA 青年研修事業
- ・JENESYS2.0
- ・カエルプロジェクト
- ・日系人就労準備研修（現：外国人就労定着支援研修）



事業実施概要

事業名	「地域と共に」推進事業					
地域の課題	日本での定住化が進むなか日本語能力は高いのに、なかなか自発的に地域に入っていけない外国人が多くいる。また、日本人の外国人理解や日本語教育・多文化共生社会の重要性も理解されていないという現状がある。					
事業の目的	在住外国人の更なる日本語力向上と、外国人がその日本語力を駆使して地域社会の住民と共に様々な行事に積極的に参加し、地域の一員としての意識を高め、地域に生きることを自覚し自己実現を目指す。					
事業内容	取組1			取組2-①		
	名称	小松市外国人のための地域と共に活動するための日本語（初級・中級・上級）		名称	地域の人と顔が見える関係づくりを目指して（やさしい日本語講座）	
	目的	日本語レベルの更なる向上と地域行事への参加による交流、また文化的背景の学習及び知識の習得。		目的	「やさしい日本語」の使用により外国人の日本語レベルに関係なく交流ができる、ということの周知。	
	内容	取組む地域行事に必要な文化的背景、取組の意図、語彙・表現を中心に学ぶ。		内容	① 「やさしい日本語」とは何か ② やさしい日本語を体験し、取組2-⑥の準備を一緒に行う。	
	対象	外国人		対象	地域住民	
	時間	1回2時間×39回（全78時間）		時間	1回3時間×2回（全6時間）	
	人数	83人（初級・中級・上級）		人数	日本人7人	

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラムB

第2日目
ポスター
セッション

取組2-②		取組2-③	
名称	地域の人と顔が見える関係づくりを目指して（ホタル観察会）	名称	地域の人と顔が見える関係づくりを目指して（着衣水泳体験）
目的	外国人が地域行事へ積極的に参画・参加することにより地域住民との顔の見える関係づくりを推進。	目的	平成25年7月の集中豪雨の経験から、外国人には防災（水難）に対する意識啓発。
内容	外国人と日本人が同じグループになるようにし、グループ毎にホタル観察の後、外国人が企画した肝試しや国別対抗バレーボール大会を行った。	内容	実際に服を着たまま水の中に入り、救助を待つ間の対応や救助をする際の対応・注意点などを体験。
対象	地域住民（外国人・日本人問わず）	対象	外国人
時間	1泊2日	時間	1回 3時間×1回（全3時間）
人数	59人（うち外国人21人）	人数	21人
取組2-④		取組2-⑤	
名称	地域の人と顔が見える関係づくりを目指して（小松市総合防災訓練）	名称	地域の人と顔が見える関係づくりを目指して（よし刈り）
目的	外国人が地域行事へ積極的に参画・参加することにより地域住民との顔の見える関係づくりの推進及び外国人には防災に対する意識啓発。	目的	外国人が地域行事へ積極的に参画・参加することにより地域住民との顔の見える関係づくりを推進。
内容	地域住民に災害時、外国人に普段使用している日本語では情報伝達が難しいことを体験してもらった。	内容	地域で開催されるボランティア行事に参加し、地域の人たちと交流を図る。
対象	地域住民（外国人・日本人問わず）	対象	地域住民（外国人・日本人問わず）
時間	1回 3時間×1回（全3時間）	時間	1回 3時間×1回（全3時間）
人数	780人（うち外国人15人）	人数	350人（うち外国人21人）
取組2-⑥		取組3	
名称	地域の人と顔が見える関係づくりを目指して（小松のいいところ発見！）	名称	多文化共生シンポジウム「外国人から見た小松って？」
目的	やさしい日本語を使い日本人と外国人が一緒に市内リサーチをし、交流を図ることにより日本語教育や多文化共生の重要性を理解してもらう。	目的	取組の成果や外国人の思いを広く地域に発信することにより外国人への理解を深め、日本語教育や多文化共生の重要性を認識してもらう。
内容	取組2-①受講者と外国人が同じグループになり計画・リサーチ実施・リサーチ結果をまとめるという一連の作業を一緒に行った。	内容	第1部 スピーチコンテスト 第2部 取組成果の発表 第3部 総括「小松の多文化共生の実現に向けて」
対象	地域住民	対象	地域住民（外国人・日本人問わず）
時間	1回 4時間×1回（全4時間）	時間	1回 3時間×1回（全3時間）
人数	17人（うち外国人10人）	人数	109人（うち外国人27人）
連携体制	小松市役所国際都市推進課、小松市役所環境推進課、小松市消防本部、こまつ環境パートナーシップ、金沢学院大学		
成果と課題	外国人がいろんな地域行事に参加・参画することにより、地域に在住する外国人のことを知ってもらい、顔の見える関係づくりや日本語教育・多文化共生社会の重要性を理解してもらう第一歩となった。また外国人には地域住民と接することで様々な気付きがあり、自分たちも地域社会の一員であるという認識につながった。 課題としては、当協会の取組に参加する外国人は市内在住外国人のごく一部である為、もっと多くの外国人が学習しやすい・参加しやすい環境づくりが必要である。		
皆様へ一言	平成26年度の取組を実施したことによって、外国人の地域社会の一員としての意識につながったことや、本事業の成果・苦労したことなどをご紹介したいと思います。 持参資料：多文化共生シンポジウム「外国人から見た小松って？」冊子		